



普通高等教育“十五”国家级规划教材

新编

第一册

日语泛读

しんぺんにほんごたどく

王秀文 李庆祥 (日) 山鹿晴美 编著

外语教学与研究出版社



普通高等教育“十五”国家级规划教材

新编 第一册 日语泛读

しんぺんにほんごたどく

王秀文 李庆祥 (日)

江苏工业学院图书馆
藏书章

外语教学与研究出版社

北京

图书在版编目(CIP)数据

新编日语泛读. 第一册 / 王秀文, 李庆祥, (日)山鹿晴美编著. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2005. 12

ISBN 7-5600-5329-7

I. 新… II. ①王… ②李… ③山… III. 日语—阅读教学—教材
IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2005) 第 158922 号

出 版 人: 李朋义

责任编辑: 杜红坡

封面设计: 袁 璐

版式设计: 韩晓梦

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京大学印刷厂

开 本: 889×1194 1/32

印 张: 10.5

版 次: 2006 年 1 月第 1 版 2006 年 1 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 7-5600-5329-7

定 价: 15.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

编写说明

本套教材（共四册）是作为1992年立项的《日语阅读课程改革与研究》（辽宁省教育委员会人文、社会科学重点基础研究课题。主持人：王秀文）研究成果之一而编著的。1994年春通过中国高等院校外语专业教学指导委员会组织的审稿会审定，于1994~1996年期间由高等教育出版社以《现代日语阅读教程》（共四册）出版发行；1999年开始修订，于2000~2002年期间由外语教学与研究出版社以《日语泛读》（共五册）出版发行。

在近十年的时间里，本教材得到全国数十所大学日语专业的选用，在补充了该类教材种类不足的同时，有效地促进了中国日语教学的发展，也确立了本教材的社会地位。2002年，本教材被确定为中国教育部普通高等教育“十五”国家级规划教材。

藉此之机，在出版社的支持下，于2004年开始着手选材和新编工作，更换了原《日语泛读》近三分之一的内容（第一册的第三、五、六、八、十、十六、二十一、二十三课为新替换内容），进一步增强了时代感和可读性，同时兼顾广大考级、考研及自学日语者学习之便，为全书正文添加了中文参考译文。

本教材第一册主要由王秀文、山鹿晴美执笔编著。参考译文原则上以直译为主，大连民族学院讲师刘容翻译了一、二、四、七、十一、十二、十三、十五、十七、十八课，在读研究生喜君同学翻译了三、五、六、八、十、十六、二十一、二十三课，在读研究生赵美玲同学翻译了九、十四、十九、二十、二十二、二十四、二十五课，译文全文由王秀文修改校正。

最后，谨向多年来使用和关心本教材的广大教师和同学们表示感谢，敬请一如既往提出宝贵意见，以便重新修订时参考。此次新编出版，得到了外语教学与研究出版社日语工作室的协助，同时也得到了《人民中国》杂志社王众一主编的大力支持，在此一并表示衷心的感谢。

编著者

2005年10月1日

原版编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材,主旨在于通过有指导的大量阅读,提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力,巩固所学的语言知识,扩大知识面和词汇量,丰富日语语感等,以达到运用日语进行交际的目的。适用于日语专业的泛读课、大学日语的阅读课和各类日语教学单位的教学,也可供广大自学日语的人员使用。

本套教程分为四册,每册25课,供教学单位选择使用。每课由课文、ことばの説明、練習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ等部分构成。课文选入的文章均系原文,并力避国内其他教材中已出现的文章。文章长度以1,500字左右,渐次增加至3,500字左右,在编排上考虑了难易程度的循序渐进、由浅入深。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性,同时也兼顾文章题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生视野和知识面,还有意选用了个别从语法和句子结构角度来看不是太规范的文章。

“ことばの説明”部分,从课文中提出影响阅读、理解的词语2%左右,标注日语音或汉字,并注以中文对应词或解释。对

少量意思上一目了然，但发音有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等在课文中标注“振り仮名”。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇原则上不予提出。

练习的编写以努力提高学生的理解能力和突出它在教学中的指导性作用为原则。“練習Ⅰ”以词语练习为主，从课文中提出与文章理解密切相关的词语（包括语法现象）5个左右作为问题，每个问题后设答案若干，以选择的方式进行语义及用法方面的练习。“練習Ⅱ”以内容练习为主，从课文中提出与文章内容的理解密切相关的问题（包括语法现象）5个左右，结合文章内容在每个问题后设答案若干，供选择练习。“練習Ⅲ”结合文章的主题思想和中心内容提出问题两个左右（本项练习从第一册第16课开始设），供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。“練習Ⅳ”为快速阅读部分，每课选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料，并从中提出3个左右的问题以选择的方式供理解练习。短文亦均选用原文，选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容，在时间要求和教学方法上可作更灵活的处理。

《现代日语阅读教程》1~4册由王秀文（辽宁师范大学）担任主编、李庆祥（山东大学）担任副主编。第一册由王秀文、关春影（辽宁师范大学）、刘淑梅（山东大学）、李庆祥编写，在辽宁师范大学任教的高岛康子先生审校了全文。

由于我们经验不足、水平有限，加之时间仓促，错误及不当之处在所难免，欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

本套教程第1、2册曾由部分日语专家、教授开会审定，参加审稿会的有（依姓名笔画序）：于长敏先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、吉林大学外语学院院长、教授）、尹学义先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、国家教委高等教育出版社编审、教材发展研究所研究员）、刘和民先生（中国日语教学研究会顾问、大连外语学院教授）、刘耀武先生（中国日语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授）、胡振平先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、中国日语教学研究会常务理事、洛阳外语学院教授）、徐祖琼先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、日语组副组长、中国大学外语教学研究会副会长、复旦大学教授）。审稿会上，各位专家、教授对本教程给予了充分肯定，并提出了许多宝贵的意见和建议，对此谨表衷心的感谢。

本教程选用的文章涉及到很多作者，由于种种原因难以查询、联系，敬请各位作者谅解，同时在此谨表诚挚的谢意。

编者

1994年4月

目 録

第一課 練習と人生	1
第二課 日本昔話	9
第三課 二種類の文化の狭間で	17
第四課 日本の水資源	26
第五課 「イッキ！」のかけ声もほどほどに	35
第六課 東京一極集中	44
第七課 方言	53
第八課 指紋	62
第九課 お正月	71
第十課 エコ・エネルギーの時代	80
第十一課 わたしの考え	88
第十二課 かぶき	96
第十三課 日本の植物	105
第十四課 日本人の好きな言葉	114
第十五課 集団論理と日本語	123
第十六課 日本の小学校の100年	132
第十七課 10年目のふるさと	142

第十八課 現代の子供	150
第十九課 端午の節句	160
第二十課 父親の存在	169
第二十一課 畳の部屋の利点	178
第二十二課 日本の風土と文化	187
第二十三課 自然との共生	196
第二十四課 和風旅館の魅力	206
第二十五課 「むかつく」ということ	215
 参考译文	 224
参考答案与题解	273

第一課 練習と人生

人間は、不可能と思われたことを、つぎつぎと可能にしてきた。たとえば、鳥のように空を飛ぶことは、人類が大むかしから持っていた願いであったが、今日では、飛行機によって、どんな鳥よりもよく空を飛ぶことができるようになった。同じように、魚のように水をくぐることも、むかしは不可能であったが、今は潜水艇などによって、どんな魚よりもよく水をくぐることができるようになった。月の世界に行くなどといえは、むかしは、まったく実行不可能な空想であったが、今は、それが夢ではなくなろうとしている。

人間は、どのようにして、不可能を可能にしてきたのだろうか。わたしは、それは発明と練習によって行なわれたのだ、と思っている。飛行機が発明されて、空を飛べるようになったのだが、私は、自分で飛行機を操縦して空を飛ぶことはできない。飛行機を操縦するためのきびしい訓練を受けていないのだから、そんなことができようはずがない。

わたしは、先ごろ、アメリカの宇宙旅行の研究所を視察した。そこには、われわれが見ても聞いてもわからないような、複雑な機械や装置が設けられていた。それとともに、そこで、飛行士たちがとても厳しい訓練を受けているのを見た。宇宙旅行という不可能を可能にする仕事に、多くの発明が使われるとともに、きびしい練習が積まれているのである。

練習によって不可能を可能にする例として、水泳のことを考

えてみよう。生まれたままの人間は、水に落ちるとおぼれて死ぬ。水泳を練習した者は、すぐに手足を動かして浮かぶ。人は、おぼれて死ぬ動物から、浮かんで生きる動物に変わるのである。これは、考えてみると、別種の生物になるというほどの飛躍だ。

このように、練習によって不可能が可能になることは、われわれの身のまわりを見わたすと、ほとんど無数にある。野球のことを考えてみよう。野球を習ったことのない人にたまを投げてやると、決まって、たまが通ってしまったあとの空気を両手でつかむ。こうした人には、飛んで来るたまをバットという棒で打ち当てることは、人間わざとは思えないだろう。投手板から本塁に向かって、あるいはまっすぐ、あるいは右に曲げ、左に曲げというように、思いのままに投げるとあつては、ほとんど信じがたいと言うほかないであろう。

このように、練習によって、われわれは、肉体的な能力を発達させることができる。そればかりでなく、練習によって、精神的な能力を発達させることもできるのである。水泳の高飛びこみの場合を考えてみよう。飛び込みは、高さ十メートルの所から行なうものである。初めてこの台に立った者は、だれでも、おそれずにはいられないだろう。十メートルの高さから落ちたものが水をたたき力は、そうとうはげしいもので、飛びこみの選手がかぶっている布の帽子は、練習を続けているうちに、さけてぼろになってしまうという。ところが、練習をした青年は、こうした衝撃をおそれない。男ばかりでなく、少女も平気であ

る。高い台のはしから、身をおどらせて、美しい形で水中に突入する。飛びこみ台のはしに立って、足がすくんですわりこんでしまうのがふつうの人なら、かれは、みなすばらしい勇者である。その勇氣は単純なものかもしれない。しかし、おそれにひるまないということは、りっぱな人間の美德である。勇氣という徳が、練習によって高められたのである。

ただ、練習というのは、けっして楽なものではない。それは、努力と辛抱しんぱうとを必要とする。それは、水泳の練習ひとつをとっても明らかであろう。したがって、努力と辛抱を嫌う者には、練習できない。そのような練習ぎらいはいつの世にもあるが、このごろ、努力すること、辛抱することを嫌う傾向があるのではないだろうか。

前に述べたように、肉体的能力ばかりでなく、われわれの精神的な能力も、また、明らかに練習によって高められるのであるから、もし、練習を軽く見るようなふうがあるならば、民族の将来のために、たがいに戒めなければならない。

[東京書籍株式会社、『新しい国語』(6下)による]

ことばの説明

潜水艇 [せんすいてい]

操縦 [そうじゅう]

飛行士 [ひこうし]

手足 [てあし]

潜水艇

駕駛

飛行員

手と脚、四肢

別種 [べっしゅ]	另一種類
身のまわり [みの回り]	日常生活
見わたす [みわたす]	环視
バット [bat]	球棒
打ち当てる [うちあてる]	击中
人間わざ [にんげんわざ]	人力, 人的技術
投手板 [とうしゅばん]	投手板
本塁 [ほんるい]	(棒球) 本壘
高飛びこみ [たかとびこみ]	跳台跳水
衝撃 [しょうげき]	冲击, 冲撞
突入 [とつにゅう]	突入, 冲进
勇者 [ゆうしゃ]	勇士, 勇敢的人
すくむ [疎む]	畏縮
ひるむ [怯む]	畏惧, 害怕
美德 [びとく]	美德

練習 I

- 「…、今は、それは夢ではなくなろうとしている」にある「なろうとしている」の意味として、次のどれが適当なのか。
 - なるという状態がこれから始まる。
 - なるという状態がもう始まっている。
 - なるという状態がもう終わった。

2. 「宇宙旅行という不可能を可能にする仕事に、多くの発明が使われるとともに、きびしい練習が積まれているのである」にある「ともに」と同じ意味のものを、次の中から一つ選びなさい。
 - a. 女中をおともにつれていくことにしました。
 - b. 長い間、苦しみをともにしてきた友だちだ。
 - c. 卒業して社会へ出るのは、嬉しいとともに心配でもある。

3. 「生まれたままの人間は、水に落ちるとおぼれて死ぬ」にある「まま」は、次のどの意味に当てはまるか。
 - a. なりゆきにまかせること。
 - b. 思うとおりの状態。
 - c. その状態のとおりであること。

4. 「飛び込みの選手がかぶっている布の帽子は、練習を続けているうちに、さけてぼろになってしまうという」にある「うち」と同じ働きのものを、次の中から一つ選びなさい。
 - a. 朝のうちにやってしまわなければならない。
 - b. 三人のうちでだれが一番年長ですか。
 - c. 私の心のうちはだれにもわかってもらえない。

5. 「しかし、おそれにひるまないということは、りっぱな人間の美德である」にある「に」と同じ働きのものを、次の中から一つ選びなさい。

- a. 日本は経済力に富んだ国だ。
- b. あまりのおかしさに思わずわらってしまった。
- c. 昨年に倍する売れ行きである。

練習Ⅱ

- 1. 「思いのままに投げるとあつては、ほとんど信じがたいと言うほかないであろう」の言い換えとして、次のどれが正しいと思うか。
 - a. 思いのままに投げるということでは。
 - b. 思いのままに投げるとあることは。
 - c. 思いのままに投げるといっては。
- 2. 「ほとんど信じがたいと言うほかないであろう」という文の意味は、次のどれに当たるか。
 - a. ほとんど信じてもいいと言うべきであろう。
 - b. とても信じられないと言うべきであろう。
 - c. ほとんど信じるのが難しいと言えないであろう。
- 3. 「初めてこの台に立った者は、だれでも、おそれずにはいられないだろう」にある「おそれずにはいられない」の意味として、最も近いものを次の中から選びなさい。
 - a. どうしてもおそれたくなる。
 - b. おそれるのをおさえることができない。
 - c. おそれないわけにはいかない。

4. 練習のよさとして最も適当なものを次の中から選びなさい。
- a. 不可能を可能にすることができる。
 - b. 肉体的能力ばかりでなく、精神的能力も高められる。
 - c. 不可能を可能にできるとともに、肉体的・精神的
能力も高められる。

練習Ⅲ

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

名人への道

「かれも人間、われも人間、かれにできることで、われにできないわけではない。」こういうことばがある。だが、人間は一足とびに名人になるわけにはいかない。碁・将棋の名人と初心者との間は、ずいぶん差があるであろう。両方とも人間には違いないが、年期の入れ方が違い、精神の使い方が違う。

そのように、どんな仕事でも全精神をこめて仕事をする者が、五年十年二十年と同じ仕事に、同じように熱心に力を集中すれば、ついには他の人にはできないことを平気でやってのけるようになるであろう。それは、一朝一夕の骨折りではできない。
いっしょういっせき

問1. 「そのように、どんな仕事でも全精神をこめて仕事をする者が、…」にある「そのように」はどんなことを指してい